

隠された姫路：見失った窓

2011 年の 8 月、修理をする職人たちは天守閣の最上階の土と木でできた壁を取り壊した。内側に彼らは 8 つの幅 160 センチの枠を発見した。つまりその建築物のそれぞれの隅に 2 つずつあったのだ。城は元々隅から隅までの窓で、より全景が見えるようになっていたようだ。

隠れた窓枠の一つを通して城の内部からの景色

城の別の窓からの引き戸式になった木製の羽目板は隠された枠の一つにぴったりはまる。

存在したかもしれない景色

隅から隅への窓は城の敷地と周りの町を 360 度途切れることなく見せてくれただろう。なぜ最初の設計が捨てられたのかは明らかではない。警備の理由か？雨風をしのぐためか？我々はその変化がいつ行われたのか、天守閣の建設中なのかそれより後のいつかなのかということも正確には分からない。いずれの理由にせよ、元に戻ると、公表された設計は改修中には魅力的な選択だったかもしれないだろう。しかしながら最終的には隅の壁は元の窓のない状態に復活されたのだ。

もし元の計画通り四隅に窓が設置されていたとすれば、天守閣は全景を見ることができただろう。(芸術家の概念)

今日あるままの天守閣で、四隅には窓がない。